

## 1. 沖縄の現状といっぽいっぽの沿革

第2次世界大戦において、わが国唯一の地上戦が行われた沖縄は現在でも戦争の爪痕が癒えていない現実が存在します。関連施設を含む米軍基地の7割以上が集中し、基地の固定化が招く産業構造の疲弊により失業や貧困が深刻な社会問題化しています。

また、生活空間の上を米軍機が飛び交う基地と隣り合わせの生活や未だ大量に埋没する不発弾の存在は、平和のもとに生きる権利を日常的に脅かしています。

地域社会に目を向けると都市化と再開発による近隣関係の希薄化や低い県民所得、全国で最も高い離婚率など自らの生活を維持していくために精一杯の状況を示唆しており、沖縄文化の象徴ともいえる親族や近隣住民の助け合いである相互扶助機能ともいうべき「ゆいまーる」は、もはや従来の機能を十分に果たさなくなってきました。

一般社団法人自立生活サポートセンターいっぽいっぽは、こうした沖縄の現状の中で、2009年8月1日に那覇市内に沖縄県で初めて地域に事務所を構えた社会福祉士事務所いっぽいっぽを前身としています。当時、寄せられた相談の多くが生活困窮に関する問題であり、かつその他の様々な生活課題を重複して抱えている方が多く、「法のはざま」のある人々の実態をつぶさに見てくることになりました。

2011年12月には、特定非営利活動法人いっぽいっぽの会を設立し、生活課題を抱えた当事者によりそい、地域に根ざすNPOとして主に生活困窮者の相談支援・生活支援中心とする活動を展開してきました。

2014年11月には、生活困窮の要因と生活課題との関係を生活に支障をきたす「生活障害」という枠組みでとらえ、日常的に生活支援を必要とする人々の受け皿となるべく障害者総合支援法に基づく共同生活援助事業所を開設しました。

一方で、運営上の理由から組織形態の改編を迫られることになり、2015年6月に一般社団法人自立生活サポートセンターいっぽいっぽを設立し、特定非営利活動法人いっぽいっぽの会の理念と事業を事実上引き継ぐ形で現在に至っています。

## 2. いっぽいっぽのめざすもの

- 一. 日本国憲法の理念に基づき、健康で文化的に生きる権利の実現をめざします。
- 一. 人生の歴史によりそい、社会との関係の中で構造的に生活課題をとらえます。
- 一. 当事者主体の原則に基づき、自己選択・自己決定を尊重し、共同のとりくみによって自立した地域生活をめざします。
- 一. 社会的孤立を防ぎ、地域とともに差別や偏見のない社会の実現をめざします。
- 一. 社会保障における公的保障の充実に向けて、民間支援団体の役割を自覚した活動を展開します。
- 一. 「いのち」「暮らし」「平和」を守るために、あらゆる戦争及び戦争への道を拒否します。

以上の目的を達成するために、市民協働と関係諸機関・組織との幅広い連携・連帯を進めていきます。